

CASBEE® 新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.1

1. 建物概要

建物名称 建設地 用途地域 建物用途 竣工年 敷地面積 建築面積 延床面積 階数 構造 評価の段階 評価の実施日	新潟坂井砂山地点建設工事 新潟県新潟市西区坂井砂山3-16 第2種住居地域、第1種住居地域、防火規制無し 集合住宅 2020年2月 予定 1,383.81 m ² 637.22 m ² 3,230.56 m ² 地上10F RC造 実施設計段階評価 2018年10月15日	
---	--	--

2. CASBEE新潟の評価結果

	B-	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{48.4}{60.7} = 0.7$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	3.3		バリアフリー計画	3.0
			維持管理	4.0
			設備の更新性	2.8
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	2.7		耐震・免震・制震・制振	3.0
			信頼性	2.4
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	3.0		建物外皮の熱負荷抑制	4.0
			自然エネルギー利用	2.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	3.0		節水	3.0
			躯体材料以外でのリサイクル材の使用	1.0
			部材の再利用可能性向上への取組み	5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	2.0		生物環境の保全と創出	2.0
			敷地内温熱環境の向上	2.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	2.5		まちなみ・景観への配慮	2.0
			地域性への配慮、快適性の向上	3.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

雨水に関して建物内(ピット)に一度貯留し、一定量の排水を行う様に考慮した。

CASBEE® 新潟

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築) 2016年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.1

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新潟坂井砂山地点建設工事	階数	地上10F
建設地	新潟県新潟市西区坂井砂山3-16	構造	RC造
用途地域	第2種住居地域、第1種住居地域、防火規制無し	平均居住人員	110人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年2月 予定	評価の実施日	2018年10月15日
敷地面積	1,384㎡	作成者	小野塚 竜也
建築面積	637㎡	確認日	2018年10月15日
延床面積	3,231㎡	確認者	小野塚 竜也



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.7

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂温暖化影響チャート

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.1

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 2.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.8

3 設計上の配慮事項		
総合 共同住宅の設計に際し、遮音性能の高いT-2サッシの採用や、断熱性能の良いガラスを採用し住環境に配慮した。南側に大きな空間を取り入れると同時に道路境界線にはできるだけ緑化を行い、周辺環境に対する配慮を行った。		その他 特に無し。
Q1 室内環境 音環境に関してサッシ選定は出来るだけ防音性能のよいサッシを選定している。温熱環境では、折り返し断熱までの断熱材を施工する。空気環境に関しては、仕上材料はF☆☆☆☆基準の材料を使用。	Q2 サービス性能 耐用年数の長い材料や防汚性材を採用し、建物の維持管理に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 緑地を多く確保した計画としている。敷地内に防犯カメラの設置を計画している。
LR1 エネルギー 設置される大半の照明設備にLEDを採用することで省エネルギーに配慮している。	LR2 資源・マテリアル 節水型水栓等を採用し節水に配慮した。躯体と仕上げを容易に分別できる計画とし、解体時にリサイクルを促進させる計画とする。	LR3 敷地外環境 緑化による周辺環境への配慮を行うなど、敷地外環境への配慮に努めている。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される